

平成30年度第1回四万十町文化的施設検討委員会会議録

日 時 平成30年5月8日(火) 10:00～12:00

会 場 四万十町役場本庁 東庁舎1階 多目的大ホール

出席委員 内田純一、林 一将、山本哲資、高垣恵一、川添節子、田邊法人、
青木香奈子、下元洋子、酒井紀子、刈谷明子、友永純子、中平浩太

欠席委員 谷口和史、池田十三生、林 伸一

事務局 中尾博憲町長、川上哲男教育長、熊谷敏郎教育次長、
生涯学習課(林瑞穂課長、味元伸二郎副課長、森山典将主幹、松田佐穂主任)
図書館・美術館(長木千葉美、谷脇八代美、山口 香、山地順子)

1 開 会

(事務局)

おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から平成30年度第1回文化的施設検討委員会を開会したいと思います。

職場体験学習で中学生が3名見学に来ていますので、よろしくお祈いします。

検討委員会の開会にあたり、町長より挨拶をお願いしたいと思います。

2 町長挨拶

(中尾町長)

皆さん、改めましておはようございます。

この2月23日から2期目の町政を担当させていただきますことになりました、四万十町長、中尾でございます。

四万十町の文化的施設検討委員会の内田委員長をはじめ委員の皆さんには、日頃から本町の文化、サービス教育全般にあたり、格別のご支援を賜りまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

昨年からの文化的施設検討委員会を発足していただいて、都合一年間が経過いたしました。今この町で、町立の図書館美術館においても様々な課題があります。今後、この場に来ていただいております子どもさんたちがしっかり町で文化教養を身につけていただく、さらには都市部あるいは町外からこの町を求めて来ていただけるように、文化的施設の位置づけというのは非常に重要になると思います。

ちょうど私も4年間、この任に担当させていただきました。4年前にはこの町には27人

の方が来ていただきました。27年度には45人、28年度には73人、29年度には190人がUターン・Iターンでこの町に生活しております。昨日のテレビ放送で高知県の移住者が1,100人くらいだったと思いますが、四万十町は80人ということで、高知市、黒潮町に次ぐ移住の多い町となっております。今日もここにおりますが、子供さんも26年度から段々と出生率が下がっておりましたが、29年度には106人と、1年間で25人多く産まれております。非常によい状況にあると思います。加えて新規就農者ということでは特に四万十町窪川地域は農業立地の町ですので、新規就農者という項目で集計しますと、これまでは20人程度でしたが、28年度は58人が定住して農業に従事している状況にあります。

そういった中で皆様と座談会等を通じた時に、文化教養施設、図書館の位置づけについて様々なご意見を頂きます。

今後は、この町で生をうけて育っていく中で、文化的施設の位置づけ、さらにはどういった中身で行くのか、どういった切り口で町内外にアピールできるような施設にするのか、多面的な検討が必要だろうと思います。

この委員会の検討と併用して、中心市街地活性化計画や立地促進計画を今探っている所です。国等との財源の確保もしっかり位置づけしないとイケませんので、そういった両面から進めておまして、私どもの方はこの文化的施設の位置づけ役割と財源確保をしっかりやって、中身についてはこの委員会の皆さんのお知恵を頂きながら、しっかりしたものを叩き上げていくことになると思います。特に30年度の取り組みは非常に重要な時期に来ておりますので、今後も皆さんには積極的に会の運営も含めてよろしくお願い申し上げます。

この町は今、非常にいい状況にありますので、自身も二期目として精一杯、元気な四万十町の創造に向けて頑張っていきますので、引き続きご支援ご協力を賜りますよう申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

3 委員の委嘱

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして委嘱状の交付です。前年度まで窪川高校で校長をされていた森本先生が転任されましたので、新たに窪川高校の校長先生になられました田邊校長先生に委員になっていただくことで、これからお願いしたいと思います。

(中尾町長より田邊校長に委嘱状が手渡される)

4 議事

(事務局)

ありがとうございました。

それではただいまから第1回検討委員会の議事に入ります。

委員長である内田先生に進行をお願いしたいと思います。内田先生、よろしくお願いいたします。

(内田委員長)

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

【新任の田邊校長に自己紹介を求め、田邊校長が挨拶】

ありがとうございました。

この会の中で高校生の意見をたくさん取り入れようとか、それから今日は中学生が職場体験学習に来ておりますが、中学生も、この施設をどういう施設にしていけばいいのか、この四万十町を将来どんな町にしたいか、そういう意見をふんだんに取り入れた形で、この検討委員会が進んでいって、そして町民のみんなが意見を出し合って建てたというか、私たちの文化施設なんだと言えるような、そういう下地をこの検討委員会で作っていきたいと思いますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

今日の議事は大きく二つでございます。

一つは、先だって3月に岡山県瀬戸内市民図書館に視察に行つて参りましたので、その視察の報告です。視察でどういうことを学んで、四万十町にどういう施設を建てたいかを踏まえて、その感想と報告を考えております。

二つ目は今後の取り組みですが、昨年度も出ておりました、多くの人の意見を取り入れる形で基本構想、プロポーザルを立てて行こうということで、どんな方の意見を聞けばいいのか、どういうやり方をしていけばいいかですね。そこを検討しようと思います。具体的にはワークショップをしようとか、意見は出ておりますけど、もう少し今後の取り組みについて考えていきたいと思つています。

そのような形で進めていきたいと思つています。

議事 (1) 瀬戸内市民図書館視察に関する報告

(内田委員長)

それではまず、ご予約が合わずに参加できなかった方もいますので、事務局から概要をお話しいただいて、その後、参加された方から自由に意見を頂ければと思います。

それから、酒井さんから大変タイトな資料を用意していただきましたので、その時間も取らせていただこうかと思つております。

(事務局)

それでは事務局から簡単に概要等について説明をさせていただきます。

委員さんの感想等を取りまとめて作らせていただきました資料があります。グラフの見方ですが、1～5点までのポイントを付けていただけてまとめております。例えば、青色の「(1) 図書館に入り口はわかりやすいですか？」では5ポイントの方が6人、4ポイントが6人という見方で見ていただけたらいいと思います。全体的に見ていただけたら、4ポイントと5ポイントの方が多いので、概ね皆さん好評の施設だったのではないかと思います。

各委員さんの意見においては、外観施設が街並みに溶け込んでいる、隣にある公民館との調和も取れている、図書館前の芝生の庭でシートを敷いてご飯を食べたり遊んだり、学生さんが静かに本を読んでいたりと、諸々そういう意見が出ておりました。基本的には周囲との調和が大事であるとのことで意見が出されております。

室内に入ると、館内が明るくて雰囲気がいい、ぬくもりのある建物で煉瓦状の造りがよかった、内部の表示やトータルデザインが見やすかった、館内のパンフレットが分かりやすかったという意見がされております。

展示スペースや配置については、圧迫感のない広い空間が出来ている、カフェスペースや展示スペースが的確に配置されていたので四万十町でもそういう施設にしていきたいとの意見がありました。

取り入れてほしい意見としては、地域住民とのふれあいのスペースがもう少し多ければいいなどでした。

ほかには、椅子が間隔を空けて配置をしてあるので座りやすかった、学習スペースが複数あったので非常によかった、入り口のカフェスペースが居心地がよさそうだったなどです。日曜日にはたくさんの若い人がルールを守りながら使っていたので感じがよかったという意見もありました。

施設の内部に郷土資料の展示がしてあるんですが、そういう展示を図書館でするのは新しい感じがしたので、ぜひとも四万十町でもそういう施設にしてほしい、郷土資料館と図書館が定期的に企画展をしたらいいという意見があります。

図書館の子どもコーナーについては、子どもたちがワクワクするようなスペースがあって非常によかった。もう少し広ければよかったのになという意見もありました。

続いて蔵書や分類について。本の並びが利用者から見て分かりやすい、利用者目線が重視されている、配架が特に印象に残っていてこれからの図書館運営の参考にできるとかです。

雑誌の数が非常に多い。お店や企業からの雑誌提供があるということで、それも非常に珍しい、面白いということで意見が上がっています。

続いてコンセプトや図書館が出来上がるまでについて。図書館は子どもの学びの場、高齢者にも学びの場で生き甲斐作りというのが一番大事になってくるということで、例えば「認知症に優しい」というコンセプトも使っていたので、こういうのも四万十町内で施設

を作るのにもヒントになった。

図書館長を早めに公募して準備段階から参画していただいてプロの目線でやっていたのが非常によかったとの意見もありました。

移動図書館についてですが、2台の巡回バスを利用して広い市内を巡っていると。四万十町はかなり広いので、是非ともこういう巡回バスを学校支援や地域支援に活用していただければとの意見があります。

その他については、年代に応じて活用する仕組みです。小さい頃から貸出の習慣をつける仕組みがかなりされていることや、子連れで行った時に館内外に遊べる場所がありゆったりと過ごせる感じがしたことです。

本を借りるためだけの施設だけではなく、図書館に行くことが目的で、瀬戸内市民図書館が市民に溶け込める施設になっていると感じられるとの意見もありました。

文化施設はまちづくりと人づくりの両方の可能性が込められていることが非常に大事だと感じたとの意見もありました。

簡単ですが以上で、こういう意見があったということで交付させていただきます。お願いします。

(内田委員長)

ありがとうございました。大変コンパクトにまとめていただいたので分かりやすかったかと思います。

瀬戸内市は今、人口が約37,000人と伺っておりまして、四万十町から見れば人口規模がほぼ倍です。四万十町と同じく合併があつて、その中心がここになりますが、周辺地域にも本を届けていて、外との関係も、同じような課題を抱えている街だというふうに思います。

今お話があつたように雰囲気も地域にマッチしておりますし、温かくて調和があつて明るい雰囲気ということから始まっているいろんなお話を伺いました。

それでは実際に視察に参加された方に感想を伺おうと思います。

(下元委員)

先日も子どもを連れてお邪魔させていただきました。ありがとうございました。

子連れで図書館に行くことは四万十町でもありますが、やっぱり子どもってどうしても騒いでしまうので。今の四万十町立図書館の子どもスペースも素敵なんですけど、瀬戸内市民図書館には外にも子どもと一緒に座ってご飯を食べたりする場所があつて、中に入っても子どもが遊べる物があつて、そこが子連れの方にとっては、というか私にとってはほっとするというか、とても優しい施設だなという印象はありました。読みたい本も色々あつて、自分が一人で行くことにもなかなか、いつでも来たいと思えるような施設で、そこ

が一番魅力を感じた所でした。

(内田委員長)

ありがとうございました。

建物だけでなく周辺の空間を含めた全体がいいですね。そして、誰でも気軽に参加することができるし、「また来たい」という思いがするような、そういう雰囲気の間であるということですね。

今言ったようなことが、私たちが基本構想を作っていく時のコンセプトにはなっていくと思いますので、そういうものを見つけながら活動を続けさせていきたいと思います。

(中平委員)

建物全体が広いのもあって、奥のほうの座って読むような席はすごく静かで落ち着いて勉強もできたし、個室や会議室みたいなのがいくつもあって色んな目的のために使えるということ、下元さんが言ったように外に芝生があって、ああいう場所があるのもいいし、入り口から入ってすぐにカフェテラスがあったりして、自由度が高くて、ちょっとざわわしたい人が居たい時に適した場所もあるし、集中して何かしたい人に適した場所もあるし、というのがすごくあったと思います。

あとは、郷土資料の展示も、導線状に上手くはめ込んで、床や柱の中に陳列を作って。別に何かを構えるより、図書館の中に邪魔にならない程度にそういうものをねじ込んでるので、別途に場所を構える必要はないのかなと、そういうところは参考にしたほうがいいと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

最後のほうに言われた、それぞれが別にあるよりも全部が繋がって見えて、郷土資料も美術関連の物も、図書も情報も、一体になっている感じがありますね。それぞれ別に展示するわけじゃなくて。そこは一つの導線状になっていて、お互いが利用し合える工夫が随所に見られたのは、すごく大事な点かと思います。

ここの施設も、図書館というよりも、四万十町の文化的施設ということで、美術館なども考えないといけないし、今日の資料のことも考えていくことになりますので、それらをどうやって繋いでいくか。それらがやはり非常に大事でないかとの話になります。

それから自由度が高いというのは大変大事なご指摘だと思います。本当に自由な雰囲気ってというのは、何がそれを実現させているのかもまた一緒に考えながら進めていきたいと思うんです。

施設としても、多目的ホールがございまして、講演会やコンサートみたいなのもあると言っていましたし、多目的な施設を上手に使っているという感じが致しました。

(刈谷委員)

先日行かせていただいて、建物も中の様子もすごくいいなと思った図書館でした。

職員の方の専門性が生かされていると思いました。職員全員が司書の資格を持った人で、地域資料についても学芸員を入れていて。館長さんは「もう一人くらい欲しい」とおっしゃってましたが、やっぱり専門性を持った図書館員が作る図書館は、利用者目線に立って利用が長く続けられる作りになっているのを強く感じました。

あとは、職員が研修を続けていける、司書として育てていける場所であることもすごく大事だと思いました。

あとは、図書館の中身・主役は本なので、その予算をどれだけ確保していけるかが、建物が出来てから一番大事なことになるかと思います。

子ども向けのスペースと一般のコーナーと場所が分けられていたので、児童書のコーナーが奥まった所にあって、子どもたちに読み聞かせをするのに大きな声を出しても周りに影響がなくて、場所の空間の分け方、作り方も工夫されているなと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

冒頭からお話がありましたように、まず館長さんが常時専門性の高い館長さんですね。設立の段階から一緒に準備を進めたということもありましたし、その関係で職員の専門性が高い。司書資格を持っていたり学芸員も一人いらっしやったり。利用者目線に立った仕事ができるスタッフが充実している。その方たちも日々研鑽を積んでいる、研修する仕組みも持っているというのが大事だというお話ですね。

ここの図書館の蔵書数は20万冊と伺っておりましたが、年間の図書購入費、予算もまた大事な要素だと改めて感じたことでした。

(青木委員)

先日はどうもありがとうございました。私もみんなの意見と同じことを感じていました。

仕事柄、子どもの所を重点的に覗かせていただきました。子どものコーナーのところでちょっと隠れ部屋のなところがあって、これって絶対子どもが喜ぶ作りになってるなあって。裏側に回ってみたり。二人くらいの女の子が床にべったり座り込んで本を広げて、私が横を通っても全然気にすることもなく集中してすごく見てましたが、ああいう姿を見た時に、本当にこの施設はみんなに愛されているんだなあってすごく感じました。

行くまでは立地とか、街中のほうがいいんだろうなあとか自分の中で思ったりしましたが、行ってみたら、建物プラスその周りには、公園みたいな広い施設があればいいなあとか、駐車スペースが広く必要じゃないかなあって。駐車場が広くあれば、今の親御さんっ

て大体車に乗っていきますよね？ 少々遠くてもその駐車場が確保されていれば、興味のある方はどんどん来てくれるんじゃないかなあとか。行ったあとで自分の中の変化にそんなことを感じました。

本当に、見せていただいて、素晴らしい所で、ああいう所が参考になりながら、いいのができればなって思いました。

(内田委員長)

すみません、ありがとうございます。

みんなから愛されている感じが致しましたよね。そしてよく、「使う人が図書館を育てる」と言われるわけですけど、それがマッチしている感じですよ。

先ほど事務局の方から、図書館利用を小さい頃から経験しているので身につけている、マナーがいい、というお話がありましたが、それは「みんなで作ってきている」ということがあるから、自分事として考えられるわけですよ。ぼんと誰かが建ててくれて「使いなさい」と言われたから使っているとなっちゃうと、ゴミを捨てたり本を汚したり、マナーが悪いかもしれませんがそうではない。いわゆる「自分で使っている」という感じがするのでマナーもいいのか？ ということを感じますし、館長さんもそんな言い方をされていたと思いますが。四万十町もぜひそういう図書館を目指したい。

駐車場は広々としたスペースがあるようでしたが、四万十町のほうもそういうところを考えなきゃいけないのかと思います。

正面が高校なんですよ？ あの時は休日でしたからあまり見かけませんでしたが、もしかしたら高校生同士の交流もあるのかもしれない。

川添先生、どうですか？

(川添委員)

私自身、行ったということを忘れるくらい色々あったもので、懐かしく思い出しながら話を聞いていました。

私も皆さんと同じような多くを感じました。行った瞬間、居心地がいい、明るい、圧迫感がない、空間の使い方が上手だと思いました。設計士さんを物凄く選んでいるとお伺いしましたので、そういうのも大事だなと思いました。

あと、多様な世代のニーズに応えているなど。あの「チャダルトガレージ」。中高生の意見を取り入れて作られたコーナーも印象に残っています。

中平さんもおっしゃっていた民具の飾り方。2回目の会で四万十町をあちこち回った時に、色んな場所で色んな民具があったので、これらを上手に生かすには方法がないかな？ と。あの、床に埋め込むとか、定期的に飾ってるんだと思いますけど、ああいうのも工夫があっただけかと思いました。

四万十町はすごく広いので、ポップな巡回バスがあったのもいいなと思いました。

返却するにも、あちこちに返却ポストがあるとおっしゃっていたと思いますが、TSUTAYA でビデオや DVD を借りたときにローソンで返せますよね、ああいう仕組みのポストがあったら、広い四万十町でもわざわざ図書館に来られない高齢者でも、巡回バスで借りてぱっと返せるんじゃないかと思いました。

私が一番思ったのは、「もみわ」という名前が変わっていると思いましたが、「もちより、みつけ、わけあう広場」という基本理念を最初からしっかり持っていて、その基本理念を実現するための七つの指針が明確に一番先にあったので、そこからアイデアを持ち寄ることができたんだろうなど。これを明確に持つことがスタートかなと思いました。

以上です。ありがとうございました。

(内田委員長)

ありがとうございました。

「もちより、みつけ、わけあう」というのをコンセプトにして、頭文字を取って「もみわ広場」という呼び方をしていますよね。そういう、みんなで一緒に言えるような言葉を作り出すのが大事で、この会でもこれから出していきたいと思います。

それから、よく、図書館はネットワークだと言われるんですね。ぼんと一個の中央図書館を作って終わりじゃなくて、「来なさい」と言うんじゃなくて、各地に図書を届ける。あるいは分館、地域の図書館、学校とネットワークを組んで、図書や資料や情報を届ける。そこが図書館には非常に大事なんだということですね。そんなことも、ここから改めて学んだように思うわけですね。

どこでも借りられるし、どこでも返せるし、家に居ても届くし、というような仕組みが大事だし、それがあからみんなに愛される図書館になっているんだと肌で感じました。

中高生の意見を取り入れたコーナーというのも面白かったですね。あれは作る過程で中高生に意見を聞いていて、そこから出てきた意見を実現させたわけですけど、ぜひそういうやり方も利用したいわけですが。

下元さん、どうですか？

(下元委員)

館長さんのお話の中に、子どもたちも参画して、子どもたちのためのものを大人だけで考えるのはどうだろうって考え方はすごく大事なことなんだなあって。

やっぱり中高生もそうですし、小さな子どもでも意見っていうのは……今うちの子どもが4歳ですけど、その時期から考えや理想が出てきていて、こうしたい、こういうのが好きというのがはっきりしてきていて、そういう子どもたちの意見をその子から、無理だとしても先生から。可能じゃないかなって思うので。取り入れたらきっと素敵な場所になるだろうと感じました。

ありがとうございます。

(内田委員長)

ありがとうございます。

何歳からでも自分なりの思いや意見を持っているものですよ。それを私たち大人がどういうふうに聞き取るかがすごく大事なわけですよ。そういう意味では保育園にも小中学校にも高校にも聞いてみたいし、そのうえでどうするのがいいでしょう、どういうアイデアがありますかっていう。そういうことを尋ねた上で、進めていきたいと感じます。

ありがとうございます。他には……

それでは酒井さんにご用意いただいたものがありますので、ご説明いただきたいと思えます。

(酒井委員)

すいません、長い物を提出してしまって。

全体的には皆さんと同じく好印象を持った図書館でした。羨ましいなあと思う図書館で、先ほどの皆さんの話を聞いている内に、「いいな」と思われる図書館が出来た背景には、きっと川添委員が言っていた理念がしっかりしていて、建物の造りに関しても12回もプロポーザル形式の市民参加型で、みんなが自分事として参加してきた経緯があるので、結果的に土台がしっかりしているから枝葉として作り方が見えるわけであって、その土台に手を抜かずしっかりすることが求められているのかなと思いました。

そこさえしっかりしていれば、四万十町らしい、前に皆さんでお話したような、もっとももっと素晴らしい施設が自然と出来上がってくると思うので、ぜひ町民が参加できるような。

ものは違いますが、最近の公園が全国的にも問題になっていて、役場の方たちが一生懸命、ケガのないように造った公園は結果的に子どもにとっては面白くなくて利用されない公園になってしまうんですよ。苦情が来ないようにとか。管理は自分たちがして、遊ぶのは市民だけど、そうなるとう掃除も管理も役場の人任せで責任を持たないので、実質利用している人が愛着も湧かないから、面白くなく利用されない意味のない公園が全国にかなりあり、図書館にも同じことが言えると思うので。

図書館全体の感想としては、私はここ(酒井委員独自の提出資料)に簡単に書き込みましたので。今後求められているのはしっかりした、参加した人たちが自分事として作り上げていくんだという作り方が必要だと、今皆さんのお話をお伺いして、改めて思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

他に何か、印象的な空間とかございますか？

(酒井委員)

そうですね。さっきも言ったように、全体的に明るくて開放的で、自由度が高くて、居心地がよかったです。

今後はここをこうしたらいいなという幅がちゃんと残されているので、その時々で利用しやすい形に成長していく図書館なんだろうと思いました。

あと、この子たちの親としては、授乳室とか、細かい配慮がとっても嬉しかったです。

(内田委員長)

はい、ありがとうございます。

実際に行っていたいただいた委員さんから感想をお聞きしましたが、ご参加できなかった方は報告を聞いて、何かご質問や意見ありませんでしょうか？

(山本委員)

どうも、行けなくて大変残念な思いです。

皆さんの感想があまりにも的確で、実体験を通じての感想だったと思います。

特にこの酒井さんが作ってくださった資料は本当に参考になるし、皆さんの意見をまとめた資料と重複させて参考にして、これから討議していったらいいんじゃないかと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

高垣さんはいかがでしょう？

(高垣委員)

皆さん、ご苦労様でございます。

前に、こういう詳しい説明を受けたわけではないですが、(瀬戸内市民図書館を)覗かせていただいたことがございます。

図書館としてきちんと、市民も行政も意欲と盛り上がりがあって出来た図書館だなと思ったんです。四万十町でもぜひ、そういうものが出来つつあるので、先進地の立派な図書館を見ながら、実現したいです。図書館という形のものを実現するというのが第一の段階じゃないかと思います。

今までずっと振り返ってきて、私は窪川なんですけど、昔、旧公民館の別室に書庫のような図書室があって、そこが壊されて今度は改善センターの離れに書庫のようなものが出来て、それから旧郵便局に移って、さらに法務局の空いた土地に移ってと、「図書館」というものがなかったんですね。全部ずっと空いた所に本を並べてきただけのものであったので、ぜひ、立派な図書館を、それ以上のものを作るのは一番大事ですが、とにかく「図書

館」を作っていきたい、作ってもらいたい。今度の視察がそのきっかけになればと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

林さんはいかがでいらっしゃいますか？

(林委員)

すいません。視察にも他の用件があつて欠席しておりまして。

お話を聞かせていただきまして、急ぐべき施設であると感じております。町民の間では早くしなければならないということが言われております。去年発足した時に地域回りもしたのですが、とにかく急いで、日に日に郷土資料がなくなっておりまして、どうしても早く収集して、いかにそれを町民の間で活用していくかが課題でもあります。

また、私は地域の人とよく話しておりますが、無形文化財としての郷土芸能ですが、各地区で貴重なものが残っておりますのに、高齢化で保存する団体が消滅していつている実態があります。これが一度廃止になりますとなかなか活用しにくくなりまして、ぜひともそういったものを整理、発掘して、いかにして地域で保存していくか。

また、皆さんで研修に行った時に、郷土資料の保存で、文化財的に価値のあるものについても、建て替えとか、若者が興味のない古いものを置いてどうするかということもありまして、私は非常に心配しております。

すでに、公文書の保存についても大事なことです。法的にも公文書館設置は義務づけられておりますが、なかなか伴わないということで、そういったものも段々となくなっております。そういった面で多くの心配をしております。

こういった会が発足しましたので、生かしていきながら頑張っていきたいと、皆さんのご意見を伺って強く感じた次第であります。以上です。

(内田委員長)

ありがとうございました。

郷土資料と公文書のことですね。それと付随して、郷土芸能と無形文化財のことですね。地域から消滅していつているという課題がありまして、それと今回の文化施設を結び付けて考えるという大事な会だというお話だったかと思ひます。

瀬戸内市市民図書館もお話はございましたが、写真の最後のページにも、地域史料や郷土資料のコーナーがしっかりしています。そこは専門の方が入られて、または専門家の協力を得て、形になっているんだと思ひます。地域の歴史のコーナーでは「せとうち発見の道」というキーワードがありまして、歩いていくとその地域が見えるというふうになっていました。四万十町でも、郷土や文化をよく知っている方がそこに関りながらそういうコ

ーナーを作っていくプロセスが大事だと思います。

文化施設ですので、郷土芸能や郷土資料、民具等も大事なご発言をいただいたと思います。

ありがとうございます。

友永さん、いかがですか？

(友永委員)

視察に行くことを楽しみにしていたのに、前夜にインフルエンザになって悔しい思いをしたんですが、皆さんの話を聞かせていただいて、本当に素晴らしい施設だったんだなあって思いました。

私は今、読み聞かせと、放課後子ども教室で小学生の子どもたちと関わらせてもらっていますが、子どもたちが居心地のいい居場所については自分が一番実感しているので、こういう施設の中のスペースの取り方や、自由度をしっかりと作っているのが素晴らしいと思いました。本当に実際、自分の目で見たかった。

四万十町が広いので実現しにくいことではと思いますが、親御さんは皆さんほぼ仕事に出られて、帰宅しても一人というお子さんが多い中で、放課後教室や学童を推進しているとは思いますが、そういうのを取り入れられるような施設であっていいんじゃないかなって、感じながら聞いていました。

子どもは本当に本が好きで、自分の興味があるものはすごくよく見るんですよ。探すとか、自分で考えるとか、研究しながら読む本ってすごく好きなんです。そういうスペースを取りながら、子どもさんが放課後、そこに寄って居心地のいい時間を持てるようなことが何か考えられないかと思いつきながら聞かせていただきました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

本当にそうですね。子どもの知的好奇心は際限がないですね。どんどん広がって「何だろう？」とか、わくわくするような感じ。もっともつこの地域に創り出していきたいという気持ちを感じました。

そういう意味で小学校との連携なども熱心にやりながら、あるいは大正・十和地区の地域の子たちもその近くで同様の経験・体験ができるような環境を整えていくことも必要ですね。子どもに最適の居場所を作りたいというお話かと思えます。ありがとうございました。

それでは、ここまで感想を言っていただきましたが、ここでちょっと休憩を挟んで、今後この会をどういうふうに進めていくかを話し合いたいと思います。

先程出たようなキーワードもあります。できるだけ多くの人の参加、町民みんなで参加して作るような機会を多様に用意しようとのことですが、具体的にどういう人を対象にす

るか、どういう進め方をしていったらいいかを、後半はご意見を頂きたいと思います。

〈休憩時間〉

議事 (2) 今年度の取り組みについて

(内田委員長)

では後半に入りたいと思います。

この瀬戸内市民図書館ですが、行政で検討委員会が立ち上がってから開館するまでに約5年半かかっています。四万十町でも、そんなに長い期間かけるというより、できるだけ早い段階で建てていくことが必要です。でないとどんどん団体が減っていくんじゃないかとのお話もございました。

瀬戸内市民図書館はその5年半で市民アンケートを取ったそうです。他にも「としょかん未来ミーティング」という図書館のワークショップを、都合12回開催されています。そういう中で基本構想を練り、基本計画を積み上げ、そして実施計画。途中でプロポーザル形式で設計業者を選出して、基本構想に合った形で業者と話し合いながら、ここでもワークショップなどをしながら、こういう非常に丁寧な形で作っていったわけです。

この四万十町の文化的施設の場合も、できるだけ多くの方の意見を取り入れながら、しっかりとした基本理念、コンセプトですね、そういった土台を作った上で丁寧に進めていくというのがこの委員会の意見ではないかと思っています。

そういう意味で、後半は、まず当面のスケジュールを事務局からもお話しただいて、そして実際にワークショップ等の市民参加で進めていくのであれば、どういう人に声をかけ、どういう形で意見を取り入れていけばいいか。

それぞれの分野の方もお見えですので、意見も出していただいて、それらをまとめて、できれば第1回第2回のワークショップも進めていきたいと思っています。

最後には自由に意見も伺いたいと思います。

では、事務局から、まずは当面の予定をお話しただければと思うんですが。

(事務局)

当面の予定というか、方向性について若干の提案をさせていただきたいと思います。

今年度にコンサルを入れて基本構想、基本計画までやっていきたいと考えていましたところ、ある一定、基本構想を大事にしていくべきだということも踏まえて、総務省のアドバイザー事業が活用できるとお話を伺いましたので、アドバイザー事業を入れながらワークショップを行って、基本構想を取りまとめていったらどうかと、方向性を若干変更していったらと考えているところです。

検討委員会6回、ワークショップ4回で計画しておりましたが、それについても考え直

して、ワークショップを各階層分、必要であれば数を増やすとか、この検討委員会の委員さんにもワークショップに入っただくとか、ご自由な立場で討議していただく場を設けたらどうかと考えているところです。

とりあえずはアドバイザー事業で、知見のある方たくさんいらっしゃいますので、そういう方を招聘してファシリテーターなりアドバイザーなり、ご意見を頂きながら、ワークショップ等を進めていくという形で考えております。

最終的に今年度は基本構想を作っていくというところで、先ほどの委員さんの意見にもあったように、土台作り、コンセプトを大事にしていく方向で考えたいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

今伺いましたように、今年度の私たちに課せられているのは、基本構想、基本計画です。それを取りまとめて一つの到達点というところです。

それを進めるにあたって検討委員会があるわけですが、その合間かそれと重ねる形で町民の意見をいただく機会を持つ。

それをするにあたって、ファシリテートを持っていただく場合も含めて、専門家に来ていただくための予算取りですね。これも一定の確保はあるよというお話ですので、それも踏まえてどうするか協議をしていきたいと思います。

今までで質問や確認したいところはございますか？

(酒井委員)

次は6月に開催予定ですが、ファシリテーターやアドバイザーを入れるのは次回からすぐですか？

(内田委員長)

すぐに入ってもらほうがいいのであれば……（事務局に向けて）それは可能ですかね？

(事務局)

国の事業を導入する予定ですので、国の許可や、アドバイザーの認定・人選がまとまれば、早い段階で会を設定できると思います。

ただ、相手があることなので、ただちに6月ということには、この段階では言いにくいです。

(内田委員長)

急がなきゃいけないけども、なかなか、色々やらなきゃいけないこともあってなかなか

ですが。ぱぱっと決まっていけない部分もあるんですけども。

日程等では何か？

(酒井委員)

「高校生対象」とありますが、高校生を対象としたワークショップはもう決まっているんですか？

(内田委員長)

まだ決まっていないという体でお話しいただいて構いません。

(酒井委員)

ではファシリテーターが入らない間の進め方はこういった日程を組まれてますか？

(事務局)

それは、オーテピアの開館前に視察ができたらということで、お伺いを立ててみましたが、搬入時期で視察受け入れが難しいとの回答でしたので、9月以降でないとオーテピア視察は難しいです。近隣の栲原町の図書館などを見に行くのは可能ですし、それ以外にも検討会で話し合うべきことがあれば、協議をしていくことは可能です。

最初からファシリテーターを入れるのがいいのか、やれるところは自分たちでやっていくのがいいのかという部分も含めて、この検討委員会で協議していただけたらと思っています。

(内田委員長)

ありがとうございます。

基本構想を取りまとめるという意味では、委員会でしっかりとした叩き台を出していただくことも考えられると思います。それを改めて高校生に問うてみるとか、小中学生に投げかけてみるとか、そういう方法もあるかと思っています。

最初からそういうやり方でやってもよかったのですが、なかなか準備できなかった点もあります。

瀬戸内市民図書館も見てきたことですし、今日の感想で大事なキーワードはすでに出ています。それをもう一度、我々でまとめてみる、あるいはコンセプトを出してみるのは、早い段階でやってみてよいかと思います。

(3) その他

(山本委員)

中西茂という画家が今、四万十町でチャレンジショップを出してくれてるんですが、それが6月いっぱい引き上げるそうです。これくらいの人材は高知県で探してなかなか見当たるレベルではありませんので、できたら一度、少人数でこういう話し合いの場を設けてみたらどうかと。

6月の8日・9日くらいで窪川に来てますので、できたらそういう場を構えていただければいいんじゃないかと思うんですが。

(内田委員長)

ちょっと私が不勉強で存じ上げなかったんですが……

(山本委員)

カルポートの7階に一人で展示をしています。高知市に7mの五台山から見下ろした風景画を寄贈もしています。高知県の文化大使いうんですかね？ 親善大使もやってる方で、四万十町では子どもにお絵描き会というのを、来月3回目を企画されてます。

(内田委員長)

6月でおやめになるというのは……

(山本委員)

四万十町から引き上げるということです。東京理科大学を卒業して一級建築士で、絵のほうでは日展で特選2回とか。僕が感激したのは、すぐチェルノブイリに入って視察して絵を描いてる、世界を股にかけて絵を描いてるということです。刺激になるんじゃないかと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

例えばそういう方に来ていただいて、私たちはこういうものを作ろうと思っておりますがいかがでしょうか？ とお話を聞いてみるのは非常に大事な機会となるご提案ですね。

(山本委員)

一応、堅苦しい形じゃなくて、飲みながらやるということもできます。ギャラリー556でやる予定ですので、何人かは入れます。

(内田委員長)

そういう専門家からお話を伺う機会は大事ですね。ちょっとそれも考えてみたいと思います。

(山本委員)

6月28日に全部引き上げるということなので。

生涯学習課のほうに、何日に（本人が）来るか知らせますので、その時にこういう場を設けるのか、556で飲みながら自由にやるのか、そういう方向を。

(内田委員長)

こういうふうに堅苦しくなるよりも、自由な雰囲気の中でお話を聞くという会を設けたらどうかということですね。

ありがとうございます。

ほかに何かございますか？

(刈谷委員)

総務省のアドバイザー事業の具体的な内容をもう少し詳しく教えていただきたいです。

(事務局)

瀬戸内市民図書館に行った時に島田館長から紹介があって、ウィキペディアタウンというのがあの時はやられていたと思うんですが、そういうものを総務省のアドバイザー事業でできるということで、年に2回とか3日程度とかあるんですが、そういう形で専門家をお呼びすることになります。ワークショップをやる時のファシリテーターにお呼びする。

なかなか素人的にファシリテーターとか難しいものですので、そういう方に進めていただければいいかなと考えております。

具体的に細かい所まではちょっと。誰にするかから始めるものですが、まだ決まってはいませんが、専門性のある方に入っていただく形で考えております。

(刈谷委員)

年に2回で、毎回来ていただけるわけではない？

(事務局)

補助事業としては年に2回ですが、今年も講師やアドバイザーを招聘するように単独で予算は組んでありますので、国の補助2回分以上でも、その予算を使いながら単独でお呼びするという形も可能かと思っております。

(内田委員長)

どういふ方に来ていただくかは我々が中身に合った方をお呼びするので。

こゝういふ図書館や文化施設のワークショップの経験豊富な方とか、こゝういふことにはなるかと思ふんですが。お呼びする経費はあるこゝうのことですな。

(刈谷委員)

どゝな方に来ていただくか、次の検討委員会で話し合ふこゝも可能ですか？

(内田委員長)

時間があればできますし、私にお任せいただきながら事務局と相談することもできます。

(事務局)

地域情報化アドバイザーメンバーという方がいらっしやいます、こゝういふ方を総務省が何十人か選定してあります。その中で、図書館、文化的施設に知見のある方を選定して、お願ひする形になると思ひます。

できれば事務局としては、委員長・副委員長と相談して、打診して派遣を決めていければと考へているこゝろです。

(酒井委員)

その地域情報化アドバイザーメンバーはどゝこにいるんですか？

(事務局)

はい、全国にあります。

(酒井委員)

こゝういふ方が登録されいていてその方から選ぶこゝうのことですか

(刈谷委員)

その中に文化的施設であるとか図書館の分野の専門の方はいらっしやるんですか？

(事務局)

はい、います。

(酒井委員)

その中の人でないと予算的にはアドバイザー事業外になるから使えないこゝうのことですよ
ね？

(事務局)

アドバイザー事業を使うのであればそうなりますが、それ以外にも、例えばこういう先生を呼びたいとか希望があれば、単独で謝金も準備をしておりますので、そういう形での対応は可能かと思います。

(内田委員長)

ぜひこういう方を、という方がいらっしゃったら、それは言っていただければ、また検討できるということですが。

専門家に「お任せする」んじゃないくて、事前の打ち合わせをしっかりと上でないと意味がないんですね。我々はこういう意図を持って、こういうことでお願いしますということが大事ですが、そういうことに応じてくださる方がリストの中にいるんだろうとは思いますが。

(酒井委員)

2点あります。

こういう形で事務局がバーッと座っていると、自由な意見が出にくくなり、マイクを回し続けるのも大変で、私たちは特に何とかしながら（赤ちゃんを抱えてあやしている）なので、貴重な意見を聞き逃すこともあり、できたら壁に模造紙を貼って記帳していただく方がいればすごく有難いです。もうちょっと自由に意見が言える机の配置をお願いしたい。

あとこの回数だと、意見を練っていくのがすごく難しいと思うので、集まれるメンバーは、事務局も委員もみんな、それこそ556で集まるとか、立場は関係なく集まれる仕組みを先に作っていただいたら、連絡を取り合います。内田先生も毎回遠くから来られるので、毎回こっちの都合に合わせるわけにはいかないけど、内田先生がたまたま四万十町に来ているから1時間くらいなら話はできるよとか、そういったことがみんなでも共有できるようなものがあれば、すごく有難いと思います。

皆さんの時間をボランティアで頂くことにはなりますが、この回数と形式だと、上手く練ってはいけない気がして。お願いしたいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

前もそうでしたが、どうしてもちょっと、こういう形になってしまって。会の進め方をもっともっと柔軟に考えなきゃいけないなとずっと思っているんですが、なかなか実現しなくて申し訳ないと思っております。

そういう意味で、もっと自由に集まって語れるような進め方をしていかないと、基本構想はやっぱりできないという気が致しますね。

もう一度、事務局と相談してみたいと思います。

いよいよ構想に入るので、別のやり方なり、もう少し話しやすい条件を整えるようにちょっと考えたいと思います。

(酒井委員)

このスケジュール以外で、集まれる時は集まれるというネットワークを構築するのは、個人間では難しいので、事務局にお願いできたらと思います。

(内田委員長)

そうですね。そこも委員ですからね。委員が情報を自由に行き来できるような仕組みを考えていきたいですけど。

いわゆる行政の委員会と雰囲気は違っていいわけですし、もうちょっと機動力のある会にしたいとは思っています。

少しご意見を頂きたいのは、先程の中西さんのような方に来ていただいて、コンセプトを考えるうえで勉強会をしようというのもよいと思いますし、従来からあります通り、窪川高校の高校生の意見をしっかり聞く機会を作りたいと田邊先生に言っていただきましたが、高校生がどうやったら関われるかという所のアイデアを考えていただくのもいいと思います。いきなりですが、そういうことをみんなで出し合うとかね。

あるいは先ほどの郷土史をどういうふうに図書館作り、文化的施設作りに生かしていくかといった時に郷土史関係の方に意見を聞くとか、そういう場を用意するとかですね。あまり従来の発想に捕らわれないで、少し広げた形で、こんな人にも聞いてみようとか、ワークショップを開いたらどうかとか、自由に意見を出していただけないかと思うんですが。

(田邊委員)

高校生に意見を聞いていただけるのは有難いことだと思います。15～18歳の段階でそういったことを考えること自体が、いい経験になるというのはすごくあります。地域に向けて色んなことをやっているのと同じだと思いますが、学校の外での可能性や見方を研究させるのはすごくいいと思います。そのためにはある程度下地を作っておかないと、ぱっと呼ばれて「図書館のことどう思う？」って言われても、自分の中に何も出すものがないのが現状だと思うので、ある程度こういう動きをしているが、自分が図書館がないことで苦労しているとか、そういったことを自分事にイメージさせる時間がまだ要すると思うんです。そういうのを頂く機会があれば、そのあとにこういう場に来て議論ができる雰囲気が出てくるかなと思います。

個人的な感想で教員目線かもしれませんが、高知市にいる時から思っていました、文化資本の方向性が都会と圧倒的に違うというのがありましてですね。この文化資本が子どもたちの持つ可能性を狭めていっているような社会環境にあるなと感じているんです。自

然や人の温かみという資本はあるかもしれませんが、反面、文化的、近代的なものにも触れさせて、18歳でこんな遅すぎるかもしれませんが、子どもの時からそういったものに触れて、美術を観たり音楽を聴いたり、図書館の本を読んだり演劇を観たり、それが無い。それってやっぱり可能性っていう部分になると一方的になりがちだなと思ってます。そこも手助けしてもらえば、自然はこっちのほうが勝ってるんで、ますます広域、観望的な教育ができるんじゃないかと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

最後におっしゃっていただいたのは、この施設を建てる意味ですよね。

高校生に直接尋ねるよりも前もって条件設定が必要だということですが、尋ね方にもよりますよね。「図書館をどうするか？」という言い方よりも、「どういうことがしたい？」とか「どういう文化的資本に触れたい？」などを、1回で決めるんじゃなく、何回も尋ねることはできるかと思うんですよね。その辺もどういうふうに高校生とやっていくかという点も、せっかくいい高校が地元にありますのでね、これを大いに生かさせてもらうことになるでしょうけど。

ほかに何かいかがですか？

(酒井委員)

また事務局に負担をかけるんですけど、できたら次の日程の用紙を郵送していただく際に、次回に使う資料を一緒に送っていただくと、手前に精査できて意見が出やすいと思うんで、ご検討いただければ。

(内田委員長)

いわゆる一般的な市民アンケートですが、それをやる意味とか考えていただけたらいいんですけど、広くそういう意見を尋ねてはいないんですよね？

その辺どうするかどうか意見はあります。

(中平委員)

図書館に普段から来る人の意見も聞きたいですね。大体いつでも似た顔が座っているの

で。ただ、一回も図書館に来たことないような人たちの意見も聞きたいです。何があったら来るのか。生まれてこの方お前活字の本一冊も読んだことないやろっていうような人にも聞いてみて、何があったら図書館に行ってみようかなという気になるのか問いかけをすれば、その人たちの意識も新しい図書館に向くのかなとは思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

基本構想を立てていく上でのベースになるデータをどうやって持っておくかを定めるのもあると思うんですね。世代によっても持っているイメージは違うでしょうし、図書館利用の仕方、経験の度合いもずいぶん異なるでしょうし。そういうものをあらかじめ持った上で、基本構想を考えていくことが必要だと思います。

ほかにご意見、どうぞ。

(下元委員)

アンケートというのが大人になると出てきますが、小学生の頃に「理想の町」、自分がどんな街に住みたいかを絵に描くという課題がありました。みんながすごく色んなことを考えて、絵を描いて、その中からすごいなって思う絵をたくさん見たことがあります。それが中高生に通用するかは分かりませんが、小学生や、ひょっとしたら大人でも、「こういう図書館に行きたいな、と思うような絵を描いてください」という視覚的な所で課題を投げかけたら、ただ文章で書くよりも、今まで気づかなかったような視点や夢が見て取れます。そういう絵をここでみんなで並べて見るだけでも、得るものや掴めるものがあるんじゃないかと思いました。この企画のメンバーの中に教育者や、私は保護者間ですが、そういう課題を集められる人材がいると思うので、課題を貰えればできることがあるんじゃないかなと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

アンケートというのはすぐ出がちですけど、表現の仕方はみんな違うわけですし、むしろ自由に伸び伸び夢を語っていただいたほうがコンセプトは得やすいですね。

例えば具体的に、小学生に絵を描いていただく機会が持てないかということですが、イメージとしては。ただ、全員に、必修にはならないかんがでょうけど何かあるでょうか？

(山本委員)

美術館では年一回、町内のスケッチをやってます。556では土日と学校が休みの時、好き勝手に来て、僕が画用紙をカンパで貰ってますので、その画用紙使ったりして自由に絵を描いています。そういう時に下元さんが言ったことを活用すればいいんじゃないかと。

美術館関係でまた相談してみます。回数を一度増やして自由に描いてもらうのもいいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。そういう機会を多く持てたらいいですね。
他に何か？

(林委員)

はい。

この会の進め方ですが、事務局へ質問したいのですが、大体この会は平成31年の末日までですか？ そこまでに結論、構想を出すということになっておりますが、先ほども出ましたように、基本構想を立てないかと思っておりますが、大体予定としては2か月に1回程度ですか？ 6回程度の会を開いて構想を立てるということになっているとお聞きしておりますので、その、いわゆる検討委員会としての進捗状況をですね、こういう形で2か月に1回、先ほど話にもありましたワークショップも含めて、進めていきたいということを作っていたらいいですね、それに従って、提案もしながら、意見を出し合いながら、来年の3月に向けて進んでいくという構想を立てるべきではないかと思っておりますが、どんなものでしょうか？

(事務局)

構想というか工程、スケジュールですよね。ある一定、事務局では作ってはいるんですけども、アドバイザーを入れるとかワークショップをやっていくとか、ここ最近で考え方を変えてきた部分もあるので、そういうことについて1回この検討委員会で確認していただいて、それからもう一回、事務局のほうでスケジュール管を考え直してみて、皆さんに提示していこうと考えております。

もう一つ、町長の挨拶でもあったように、中心市街地活性化計画の動きと連動したことも考えておりますので、当初予定していた動きよりは若干くり目にはなるんですけども、その分慎重に考えて進めていけたらと考えております。今年度は基本構想、来年度は計画、もしくは設計まで行けたらいいんですが、そういう形で進めていくということで考えております。

ある一定、お時間頂いて、近いうちにスケジュールは出したいと思っております。

(内田委員長)

ありがとうございました。

まずは原案として提案させていただくのが一番よかったんですが、そうせず前回と同じような出し合いになってしまっているのです。

今おっしゃっていただいたように、原案を出させていただくようにして、先ほどの進め方も改めて検討したいと思っております。

他に何かありますか？

(刈谷委員)

次の検討会までに叩き台なり何か。スケジュールとか。次回まで待つて。

(内田委員長)

そうですね。できるだけそこは早めにやったほうがいいと思います。

今回はもう少し、こういう話ではなくて、基本構想の中身なり、ゲストに来ていただいた学習会なり、基本は検討委員会を開きたいと思っております。その間にご意見を尋ねるようなことがあるかと思いますが、回数がもったいないですので、今回は本格的に中身に入れるような体制をできるだけ作りたいと思います。

進め方がのんびりでご迷惑をおかけしておりますが、大事なキーワードがいくつも出ましたので、それもまた議事録のほうでもまとめさせていただきますので、それを見て、また提案を積極的に出していただきたく思います。

(事務局)

「その他」の所で、本日の資料の終わりに図書館設置条例と美術館条例を参考までに付けております。今までにご提示できたらよかったです、今回初めて皆様にご提示させていただきました。どういう目的で図書館や美術館は設置されているとか、基本的な部分ですので、あえて説明は致しませんが、これに目を通していただいて、こういう形で図書館美術館は設置運営されているとご理解いただければと思いますので、よろしく願います。

5 閉 会

(内田委員長)

それではこれでこの会を閉じさせていただきたいと思います。

どうも、ありがとうございました。